

国税庁長官賞

困った時はお互い様

金城学院中学校 3 年
藤井 智聖

「税務署で表彰を受けてくる！」と誇らしげに出かけた祖父の顔を私は忘れない。

なんでも優良法人に選ばれたらしく、いつもは作業服姿なのに、その日、珍しくスーツ姿の祖父。でも嬉しそうな祖父とは対照的に、私の心の中は、税金を取られているのに表彰ってどういうことだろうと疑問に感じていた。

私にとって身近な税金というと消費税だが、会社は法人税を払っているんだと祖父が教えてくれた。調べてみると、法人税は、法人の企業活動により得られる所得に対して課される税で、その名の通り、個人ではなく会社が払う税金だ。また国の税収のトップ3は、消費税・所得税・法人税で、一般会計歳入総額の内の約15%が法人税ということもわかった。

ただ法人税の計算や申告はとても複雑なため、祖父の会社は専門家の税理士さんに毎年計算してもらっていることも今回初めて知った事実だ。

ところで、会社が税金を払うメリットはどこにあるのかと不思議に思っていた私に、祖父が「困ったときはお互い様なんだよ。」

だと言い、いい機会だからと会社の思い出話をしてくれた。

実は、祖父の会社は、約四十年前に火事があり、その当時、工場の約三分の一にあたる延べ面積6617.89㎡を焼失したんだそうだ。でも消防署の方々がすぐに駆け付けてくれたおかげで全焼しなくて済み、半年後には工場生産ラインが完全稼働して無事に復活したことを懐かしそうに教えてくれた。

国や都道府県・市町村は、私たちが豊かで安心した暮らしができるように、いろいろな公共サービスを行っている。そしてこれらの公共サービスを受けたりできるのは、税があってこそだ。もしあの時、消防車がすぐにきてくれなかったら、今の会社はないかもしれない。そう思うととても怖くなり、税は取られるだけのものだと感じていた矛盾にも気づき、恥ずかしくなった。

税は他にも、道路や橋の整備、犯罪防止や交通安全の確保などに努める警察、学校の建設などにも使われている。こう聞くと、税の力を借りずに生活している人間はいないはずだ。税金は、必要なお金を全員で負担し合うための仕組みなんだと改めて痛感した。

祖父は私に会社を継いでほしいと思っている。昔、税によって火事から助けられた会社だからこそ、税金を納めることで表彰されるのはこれ以上ない喜びがあるのかもしれない。税の作文を書くにあたり、祖父の秘めた想いにも触れることができた。今の私は、税によって支えられる側にいるが、大人になったら祖父の想いも受け継ぎ、きちんと納税したいと思う。少子化により将来は税率も変わっているかもしれないが、その時はもっと『税』の大切さを知ることができる気がする。